

現場と子育て

西松建設株式会社
札幌道張碓出張所

● 半沢 凜 はんざわ りん



自己紹介

私はゼネコンの土木現場で現場監督として働いています。私がゼネコンで働くことになったのは大学三年の時に卒業単位のためにインターンシップに参加することになったことがきっかけです。インターンシップ先を決める面談で、担当教員に将来はどこに進みたいのかと聞かれましたが、まだ就職について深く考えていなかった当時の私はゼネコンとコンサルの違いを深く理解していませんでした。その際にゼネコンとコンサルタでインターンに行く気なのかと怒られるのが嫌で咄嗟に「わかっていません。ゼネコンにいきます。」と答えました。その時ゼネコンを選んだ理由は、聞いたことのある会社が多かったというそれだけです。大きな志があるわけでもなく真面目でもない私が今回このような文章を書くよう依頼された理由は、どうやら社内の土木系技術者で初めて産休育休から現場復帰をしたからだだと思います。せっかくの機会ですので今回は子育てをしながらの現場業務について少しお話しさせていただきたいと思っています。

仕事と育児

入社してすぐ新幹線トンネルの現場に配属されました。山奥の現場で、宿舎に他の職員と一緒に住んでいました。女性職員

は私一人でしたがトイレやお風呂はもちろん、洗濯機も専用で用意されていました。

トンネル現場での若手職員の仕事は、測量やコンクリートの受入試験、材料発注など様々ですが、「俺たちの作業を止めるな」と作業員から怒鳴られたり、作業を優先させると現場の管理ができていないと上司から叱られたりと毎日目の前の仕事をこなすのに必死でした。毎日トンネルにこもりっぱなしのおかげで日焼けをしないことが唯一嬉しかったです。そんな生活を三年半ほど過ごしたのち妊娠が発覚し、上司に報告しました。労働基準法では妊婦は坑内作業を禁止されているため、その日の午後から引継ぎをする間もなく現場に入ることができなくなってしまうました。妊娠するまで、妊婦や一年以内の経産婦がトンネル作業に従事できないことを知らなかったため、一緒に組んでいた後輩には大変な思いをさせてしまいました。

産休明けは元の部署に復帰するものと思っていきましたが、もちろん〇歳児を抱えたまま宿舍生活をできるわけもなく支社の現場支援の部署に復帰しました。当時はコロナ禍でしたので在宅勤務も併用していました。その後二か月ほどで新規工事が入ってきたこともあり、自宅から車で一時間ほどの高速道路の補修現場に従事することになりました。現場の所長や上司とは、週に一〜二回現場に通い、発注者の立会がない日などは在宅勤務という働き方にしよう現場勤務を再開しました。しかし結局現場が始まるとそういう訳にもいかず、毎日通うようになっていました。保育園に連れていく朝はどうしても時間がなくて子供を急かしてしまうのですが、夕方は子供と一緒にゆっくりと保育園から帰りました。たんぼの綿毛を探したり、水たまりの中でジャンプされたり、保育園から持ち帰る宝物（石やどんぐり）をさりげなく自然に返したり、まるで皇族かのように通行する車に何分も手を振り続けたりしました。やっと帰宅し



新幹線トンネル現場の切羽の様子

ても家事などで忙しいため現場作業員さんや業者さんから仕事のことで電話連絡があっても対応できないことも多かったです。こんな状況が一月も続くと私のところには連絡がこなくなりました。仕事と育児の両立を目指す人には少しつらい状況かもしれないかもしれません。現場は天候に左右される工種が多く作業変更の打ち合わせをすることがよくありますが、母親としての私は雨で気温が下がるなら子供に長袖を持たせないといけないと真つ先に考えてしまいます。一〇〇%仕事に向き合えない中では同期や歳の近い同僚とどんどん差がついてしまうのを感じますが、今は子供の日々の可愛い成長にしっかりと付き合いたいと思っています。現在、第二子育児中ですが、子供に「早くして」と言わなくていいこの特別な時期を大切に過ごしたいと思っています。ワークライフバランスは人によって事情や考え方が違うため単純なものではなく、多様性をいかに受け入れるかがこれからの時代は大切だと思います。

私が今できること

とても仕事と育児が両立できているとは言えない私ですが、まだ社内のに数少ない産休および育児取得者、現時点ではさらに少ない施工現場に復帰した職員として意見を求められることもあります。そんな私にできることは、建設業における妊娠・出産・育児と仕事との両立について多くの人が悩みながらやっていることと伝えることだと思います。妊娠出産は、人それぞれつわりの重さや産後の経過、保育園事情、実家の支援など様々な理由により状況が異なります。「あの人は産休ぎりぎ

りまで働いていたよ」や「この人はこれくらいには現場復帰していただいたの」というようなことを決して周りに言わせないように、これから産休育休をとる職員にプレッシャーがかからないようにしてあげたいと思います。また、長期育休取得を迷っている男性職員の背中を押すことができればと思います。後輩職員が私をみて、「あの人ができているのだから自分も大丈夫」と少しでも安心してもらえたら先陣をきって現場復帰した甲斐があります。そしていつか自分の子育てが落ち着いたとき、自分がフォローしてもらった分、助けてもらった分をその時子育てに奮闘している職員に返していけたらと思います。



子どもはバナナが大好き

半沢さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では施工管理業務ののち水力発電の開発業務に従事している私が、これまで経験した業務内容や私自身が感じていること等をお話しできたら良いと考えております。よろしくお願ひいたします。

株式会社フジタ 経営改革統括部
エネルギー・インフラ事業統括部
エネルギー事業推進部

いしかわ
晴加

